



永年夢アイデア募集に提案をいただいている緒方さんのコラムをシリーズでお届けします。

(第 24 回～第 27 回)

第 25 回

夢アイデアとともに歩んできた道 No.2

平成 28 (2016) 年 3 月

2. 地域の海岸松林の夢アイデアシリーズ

私が海岸松林に関心を持った切っ掛けは、応募 3 : H.18 年「乗りたくなる宮地岳線」の調査からです。新宮・津屋崎間 10km 線路調査のため、電車やマイカーで往復する度に、沿線の海岸松林 (以下「松林」) が目に映りました。さらに、西鉄新宮駅の待合室で、新宮松林内を周回する遊歩道の地図を発見して、「松林は歩けるんだ！」と分り、「新宮松林ウォーク」を思い付きました。

(1) 応募 4「これからのまちづくりを (新宮・古賀・福津の合併で)」 (平成 19 年)

それまでのウォーキングコースは、福間町の田園か海岸砂浜でした。砂浜を歩いて行くと、津屋崎町の砂浜とは続いて見えますが、両町の境に小さな「手光今川」が流れているため、ずうっと迂回しなければ行けません。「ここに人道橋があったらなあ」と常々思っていました。

そのうち、福間町と津屋崎町の合併の具体化が進み、合併前年に「住民ワークショップ」の公募があり、メンバーになってからは、常々の思い「両町砂浜の川に人道橋を架けて欲しい。合併のシンボルになる！」と繰り返す発言。その結果、報告書にも記載され、福津市誕生 (H.17.01) の 1 年後に「出会い橋」と名付けられて実現しました (H.27 には福津遺産に登録されました)。

当時、私は次の合併相手は古賀市が当然の成り行きだと思いましたが、福岡県や福津市の方針は過去の経緯から宗像市だったのです。ところがその後、未だ福津市には合併疲れが残っていた時期に、古賀市長が新宮町・古賀市・福津市の 2 市 1 町合併を提起 (H.19.夏) したことを新聞で知り、賛同の手紙を市長に送りました。一方、2 市 1 町の合併を望む市民有志で「市民湾岸会議」が古賀市に発足し、後に誘われて私も約 1 年間参加しました。

ところで、「新宮松林ウォーク」では、見事な新宮松林に驚き、古賀松林まで足を延ばして、猛暑時でも松林内は極めて涼しいことに感激しました。話では「冬は寒風穏やか」とか。そのうえ、白砂青松の景観が新宮松

林と古賀松林には見られました。この時、松林は、癒し効果を持ち、歩いて健康にも良く、高齢化社会には貴重な「場所」になると確信したのです。

この頃、仮称した「パラソル松林」(10km)を2市1町で共有すれば、市民の健康や文化面の一体化、さらに防災の管理一元化もできて、市民の幸せにつながると考えました。それで、「こういった切り口の合併推進もあるな！」と気づき、財政問題だけではない、新しい合併の考え方を提案しました。(応募4：H.19年「これからのまちづくりを(新宮・古賀・福津の合併で)」)

(2) 応募5「住んでいる地域の宝を誇りに」(平成20年)

その頃、合併の「市民湾岸会議」は毎月開かれ、何回目かに、応募4をパワポで紹介したところ、会議メンバーで「パラソル松林を新宮から津屋崎(福津市)まで歩いてみよう」となりました。新宮町から古賀市へ、それぞれの地域の松林保全活動リーダーの詳しい説明を受けながら、皆で学び松林散策を楽しみました。ところが、福津市内は、詳しく説明できる者はいなく、深い藪のため歩ける所は少なく、海岸砂浜か、国道495号の歩道を歩くほかありませんでした。

その前後、私はひとりで何度か、松林を古賀市側から福津市内へ、又は逆向きに、鈴を響かせ、枝棒で藪を突いて歩いたことがありました。ある時、繁み等で方向が分からなくなり、「道案内があればなあ」と痛感したものです。また、藪の中の「ゴミ捨て厳禁 福間町」の古錆プレートを見て、福津市内であることは分かったものの、福津市民として侘しい思いをしたものです。

ところが、10km海岸はほぼ西向きのため、何処からでも水平線の夕陽が見られます。

そこで、古賀市内のゴルフ場付近は一部整備し、福津市内は遊歩道を新設して、10km「てくてく道」をつくる夢が浮かび、途中ポイントとなる海岸には考案した「日没時計」(後の夕陽風景時計シリーズで説明)等を設置する構想が生まれました。途中の川は、前述の合併人道橋と同形式で架け、川幅30mの西郷川は、舟運行のため可動式とし、夢の吊人道橋をマンガで表現しました。

私は福間町(現福津市)転入10数年経って、松林の潜在価値や夕陽の素晴らしさに気づきました。そこで、地域の人々にもこれらの真価に気づき、誇りを持って市内外に発信して欲しいと思い提案したものです。(応募5：H.20年「住んでいる地域の宝を誇りに」)



【その後のできごと】

H.20 応募 5 は語っただけの机上論でしたが、それ以降の実践行動を振り返ってみます。

新宮町・古賀市の松林に比べて福津市は放置状態のため、H.21 年の福津市長選では、応募 5 提案文を候補者に郵送して見解を問うたところ、直ちに評価の返事をくれた候補者が当選。

応募 5 発表パワポでのプレゼンは、福津市長に、それから市長が指名した同市幹部や企画担当に行いました。驚いたことに、松くい虫に弱い「松」の代わりに「広葉樹」植林の時期もあったと市から聞きました。古賀市には、松林保全 2 団体に。古賀市長と幹部には H.22 年首に実施。

偶然にも、同窓会が唐津市であった時、ゴルフを止めて「虹の松原」をひとり弁当持参で全長を歩きました。立派な遊歩道 5 km には 1km ごとに案内板があり、松林の理想像を見ました。

丁度その頃、私は遺跡発掘に従事中でしたが、発掘仲間から「松林の草刈りに行く」と聞き、市内でも松林保全活動（以下「作業」）がやっていることを、初めて知って大ショック。

実は、私の住む地域から遠い 2 つの郷づくり※1 は、H.20 後半に環境（防犯・防災）対策として松林の草刈を始めていたのです。

※1：自治区の集合体を福津市では「郷づくり」といいます。

それでも、市内で松林の作業実践ができると喜んだものの、作業は竹藪・灌木伐採に続き、重量発生材の担ぎ出しのきつさは、遺跡地面の掘起し同様でした。ただし、遺跡はアルバイト代がありますが、松林はボランティア。それで、マイカーの松林 7 つ道具に手鋸と眼鏡防護を追加常備。以前に行った古賀市の作業は、鎌の草刈りか草抜き、それに松葉カキ集めの軽作業でした。

その後、福津市で、松くい虫対策と銘打った 3 ヵ年（H.22～24 年度）大型工事が始まりました。これには、夢アイデア作品を使った福津市トップへの訴えも効いたかもしれませんが、決め手は 2 郷づくり（宮司・津屋崎）の人力作業の成果でしょう。国道 495 号沿線の松林が部分的に見通せるようになって市民からの評価の声も出てきて、これで行政と議会も動いたようです。遅ればせながらも、2 郷づくりの作業に毎月従事していた私も喜びも一入。この重作業と植樹の経験、そこの人脈のお陰で、その後、福間郷づくりその他で私はリーダーが務まったと思います。

市の大型工事が始まってからは、苦勞していた手作業の灌木伐採や担ぎ出しは、機械力で瞬間に進み、作業路が網状に造られました。手付かずだった福間郷づくりでも、やっと作業が開始され、これで新宮から津屋崎まで松林 10km 間の各保全団体の作業が出揃いました。

作業路は、防虫薬剤の機械散布や、郷づくりの人力作業、松くい虫が潜む枯れ枝の持ち出しに効果てきめんでした。松くい虫被害は減少し（除く勝浦）、応募 5 の遊歩道にもなったのです。

その頃（H.25）、糸島や奈多松林では甚大な松くい虫被害が出て、マスコミにも注目されましたが、ボランティア（郷づくり）とタグを組んだ福津市方式の成果がテレビで比較して紹介されました。それから、糸島市（行政と市民活動者が一緒）から福津松林を見学に来られたのです。

(3) 応募 10「地域の「宝の原石」を磨くには～中学生のアイデアを生かした～」H25 年

H.20 応募 5 の後、前述の如く実践を始め、H.24 年が過ぎる頃には、松林の散歩者も増えてきましたが、「白砂青松」はほんの一部で、孢子液を撒いたが松露は生えず。未着手区域も多く、市広報の積極的支援にも関わらず作業者は増えないため、先行き危機さえ見えてきたのです。

その頃、私も入っていた市主催「景観まちづくり市民会議」のメンバーに、宮司松林に入って貰ったところ、皆さんの感激ぶりがヒントになりました。広報の考え方を「作業に来て下さい」ではなく、市民が「松林へ行ってみたい」気を起こす方策に変えたのです。虹の松原のような案内板を、サイン設置事業※2の補助金を利用しますが、中学生の手作りとすれば、マスコミに取り上げられ、市民にも伝わるはずと。

※2：福間郷づくり・福間中学・福津市農水課の協議体で申請。

つまり、応募 5 で「宝石」と思った「松林」は、まだまだ原石状態が多かったので、原石磨きに中学生の力を借りることを考えました。中学生の松林勉強会で、松の特性、歴史、保全の問題点を、学内及び松林内で教えたところ、驚くほど真剣に中学生が取り組んでくれました。そこで、中学生の夢実現を期待して進行中でしたが応募しました。(応募 10：H.25 年「地域の「宝の原石」を磨くには～中学生のアイデアを生かした～」)

(4) 応募 11「高齢者だから出来る夢づくり～中学生の夢を膨らませ、その夢を追う～」H26 年

松林勉強会で学んだ中学生は、高齢者を応援しようと、1・2 年全生徒・先生 400 人以上が「総合学習」で松林に入ることになりました。大勢になったので指揮者を増やす必要が出て、結果的に郷づくりには、人に指示できる指揮者 10 人程を選ぶチャンスが生まれました。

中学生は、初めて松林に入ったり、地域に喜ばれる社会貢献の経験をしました。

また、補助金では「道しるべ」や「掲示板」本体を作りましたが、中身内容は中学生が夢とアイデアを生かし子供らしく描いてくれました。美術部生徒は、作品（道しるべ）が公の遊歩道に展示されたことに感激していました。私は、新聞社に中学生の夢アイデアで松林が蘇ったと取材を要請して、写真記事が掲載され、中学生へのインタビューも実現しました。

中学生工作の鳥巣箱では巣作りも確認（写真 3）。



(写真2)中学生が描いた道しるべ



(写真3)鳥巣箱から顔出すシジュウカラ

結果的に、中学生にも有意義な事業となり、郷づくりとのシナジー効果がありました。この効果が一過性に終らぬように、継承の仕組みも中学校や市と相談しました。私の病後 H.26 からは、松林作業等からは離れていますが、中学生提案の「松林クリーン作戦」や「松林ウォーク」は、福間郷づくりと市の協働で継続されていて、ほっとしています。

当時、意外な事も起こりました。掲示板を見て、「税金を使って、もったいない！」と私に喚く散歩者がいたのです。誤解は解きましたが、補助金を税金と思う人が意外に多いことが分かり、掲示板に「アサヒビール寄付金」と明記。中学生はもとより、企業も社会貢献している現状を、市民にも、行政にも認識してもらう必要を感じたからです。（蛇足：後日、喚いた人に感謝の挨拶に）

前年の応募 10 提案の後に、サイン事業は完成しましたが、上記のように中学生の夢アイデアから想像以上の成果が上げられ、福岡県や寄付者から絶大な評価を受けました。

その中学生の夢づくりに火をつけたのは、経験豊富な私達高齢者の教えからと完成後気付き（H.26.04）しました。つまり、高齢者が夢を示し、学校では教えられないこと、現状の問題点、社会の仕組みや法律を教えると、中学生が新たな夢を描くということで応募しました。（応募 11 回：H.26 年「高齢者だから出来る夢づくり～中学生の夢を膨らませ、その夢を追う～」）

【その後のできごと】

このサイン事業は、H.25 年度福岡県知事賞に選ばれ、H.27.03 に福岡県の成果報告会が開かれた時は、この事業も取り上げられ、協働の福間中学主幹教諭と私 2 人で成果を発表しました。

前述の通り、玄界灘海岸全体（唐津から芦屋）で松林保全活動が揃い、各種交流を企画する NPO グリーンシティ福岡が「玄界灘松原マップ」を作成（H.26 年）、その中に 10 km「パラソル松林」が表示されました（図 3）。

パラソル松林内と勝浦の 9 松林保全団体で、H.24.11 から「2 市 1 町松林交流会」を主宰した私は、感慨無量。



昨年 H.27 年秋には、日本三大松原、羽衣の松の「三保の松原」、赤松の「気比の松原」、白砂青松の「虹の松原」を歩きました。特別名勝虹の松原は松原では「日本一松原」と確認しましたが、円弧 10km と夕陽の景観が優れるパラソル松林は、松林では「日本一松林」と認知されることを夢見ています。

同 NPO の H.27 年ウォークでは、「パラソル松林ウォーク」（一部）も実行されました。

福津市制 10 周年の H.27 年に、市の木が「松」に、福津 36 景と福津遺産にもそれぞれ「松林」が選ばれました。これは、市民に松林の関心が高まり、保全活動が広がったからのようです。

福岡藩時代に奨励された植林、これに始まる海岸松林を「人工林」と説明してきましたが、H.27 年からは「文化林」と私は言い換えました。松林は、通常の役割（防風・防砂・防潮及び保健）の外にも、歴史を持ち、景観がもたらす癒し効果、教育の場として役立っているからです。

緒方 義幸

第 2・6 回佳作、第 3 回優秀賞、第 4 回市民大賞受賞者

続きはコラム第 26 回で